

住み続けられるまちづくり ～がんばろう森本商店街「SDGs 観光モデルコース」

団体名●新ゼミナール／代表者名●新 広昭（副学長・経済学部教授）

はじめに

本事業は、本学と森本商店街振興会との間で取り交わした覚え書きに基づき、森本商店街を“SDGs 商店街”としてブランディングすることを目的にSDGs × 地域創生をテーマにゼミ活動を行っている新ゼミナールと連携して進めている活動であり、2023年度で3年目となる。

活動内容

森本商店街SDGs宣言		
店名	SDGs番号	宣言
3 網約ハウジング	3, 15	木製や有害物質が少ないなど環境に配慮されている素材を使っているなどSDGsに取り組んでいる企業の家具を仕入れ、販売しています。こういった良い家具を皆様に安心してじっくり見ていただけるよう、キッズスペースを設けるなどの環境を整えています。
	12	良いものを安心して長く使ってもらえる家具を提供できるよう、不要家具の引き取りや修理・再生を行うことで、循環型社会づくりに貢献します。
	5	ギャベ屋を顕彰し、伝統的な数子物を守り、ひいては遊牧民の生活・文化を支えることに貢献します。遊ギャベは、2018年ユネスコの「無形文化遺産」に登録されている、遊牧民の女性によって手縫いされた美観絨毯。
4 金城タクシー（本社）	11（大）、3（小）	安全かつ安心で持続可能な交通手段を提供し、人と地域、企業、文化の交流を促進します。高齢者の移動や体の不自由な方をサポートできる車両設備を整え、誰もが安心して移動できる手段を提供することで、住み続けられる地域づくりに貢献します。
	5	女性従業員の積極的な採用を行い、女性の活躍推進に取り組んでいます。
5 葛巻内装	3（大）、11（小）	保温効果やアロマテラピー効果など副効果のあるい草を使った畳を提供しています。高齢者の移動や体の不自由な方をサポートできる車両設備を整え、誰もが安心して移動できる手段を提供することで、快適な暮らしをお届けします。
	12	リフォーム工事では、使えるものはなるべく再利用しています。お年寄り向けに、畳のヘリを使ったベンチやバック作り体験を行っています。

店舗ごとのSDGs目標（SDGs宣言）

課題分析結果からの2023年度活動の企画

- ◆「最寄品（日常的に購入する食品、日用品など）」の小売店は減少
- ◆特徴ある商品を販売する専門店が残っている。
- ◆歴史ある多様な店舗が点在して残っている。
- ◆こういった森本の魅力を発信しきれていない。
- ◆SDGsに力を入れていることを知られていない。

課題解消の方向

専門店ならではの魅力を知ろう！

名物店長に会いに行こう！

特徴ある施設が適当な距離に点在していることを逆手にとろう！

森本をSDGsの発信地にしよう！

そこで提案

森本商店街SDGs観光モデルコースをつくって観光商品化

RESASを用いた現状分析による2023年度活動企画

活動は、まずゼミ生が同商店街の個別の店舗でインタビュー調査し、それぞれが持つSDGs側面をSDGs宣言としてまとめ、SDGs宣言ポスターを作成し店舗に掲示した。

・森本商店街SDGs観光モデルコース1

・～名物店主に会いに行こう～

11:00 森本駅（金沢駅から電車で約7分）

↓ 徒歩5分



11:05 松井生菓舗（要予約）

↓ 徒歩5分



12:30 おぐら座 たこやきを食べながら鑑賞

↓ 徒歩5分



15:00 あずま園 加賀棒茶ソフトクリームを食べる

↓ 金城タクシー約10分



16:00 元湯 石屋 宿泊・夕食



企画した観光モデルコース



観光モデルコースの特集番組の一コマ
画像提供：石川テレビ

そのうえで、RESASを用いた現状分析をもとに、森本商店街のブランディングに向けた「SDGsが学べる観光モデルコース」を企画し、石川テレビの協力を得て実際に、学生がコースを探索する特集番組を作成・放映していただいた。

成果の考察、今後の課題

観光モデルコースは商店街振興会の役員の方や個別店舗の店主の方に好評をいただいた。やはり、専門店ならではのこだわりの商品・サービスを提供していくことが住み続けられる街づくりには必要であることが確認された。今後、モデルコースを観光商品化していくことを考えたい。